

日本糖尿病理学療法学会から

2020年7月16日

日本糖尿病理学療法学会

常任運営幹事 片岡弘明

運営幹事 岩城大介

部員 森本信三

部員 山下範恭

【若手理学療法士への期待】

糖尿病理学療法の定義より、「糖尿病理学療法とは糖尿病によって、運動機能が低下あるいは運動機能の低下が予想される患者に対して、理学療法評価のもとに医療法で示される運動、徒手的・物理的手段を用いて行われる治療法であり、糖尿病の基本治療としての運動療法を含む（沖縄表明 2019）。」とあります。

今後、日本は更なる高齢化が進み、2040年には人口に占める65歳以上割合が35.3%にまで達することが予想されており、高齢糖尿病患者の増加が大きな問題となっています。高齢糖尿病患者では中枢疾患や整形疾患を合わせ持つ患者も多く、日常臨床ではそれらの疾患に対する理学療法を提供することがますます増加すると予想されます。そのため、次世代を担う若手理学療法士の皆様には、積極的に糖尿病に関わる知識・技術を学んでいただき、日々の臨床の中で糖尿病を併存疾患として持つ患者、利用者へ還元していただくことを期待しております。日本糖尿病理学療法学会では、日本糖尿病理学療法学会大会や症例報告学会、糖尿病対策事業に関わる情報交換会、研究支援セミナー等を開催しており、全国の理学療法士との交流の場や研修会を通じて多くの事を学べる機会を設けておりますので、ぜひ日本糖尿病理学療法学会への入会を宜しくお願い致します。さらに、本学会の関連学協会が主催する日本糖尿病学会年次学会や日本糖尿病療養指導学会においても、全国各地から糖尿病に関わる多くの理学療法士が参加します。期間中には学会に参加した理学療法士との交流会を開催しておりますので、交流会を通じて様々な情報交換ができ、臨床での疑問や研究の相談などが出来る仲間を作ることも可能です。

日本糖尿病理学療法学会の活動についてご興味がありましたら、糖尿病に関する研修会や学会の有益な情報を発信しておりますので、学会専用のHP、SNSをご覧くださいと思います。またメルマガも配信しておりますので、是非新人教育プログラム修了後に、日本理学療法士協会ホームページのマイページ内にある専門分野登録画面の「内部障害理学療法専門分野」をチェック、分科学会・部門登録画面の「日本糖尿病理学療法学会」をチェックして、糖尿病理学療法（運動療法）の情報を得られる機会を作って頂ければ幸いです。

日本糖尿病理学療法学会公式ホームページ

<http://jspt.japanpt.or.jp/jsptdm/>

日本糖尿病理学療法学会公式 Facebook

<https://www.facebook.com/JSPTDM>

【近年のトピックス】

糖尿病理学療法に関わる近年のトピックスとして、糖尿病患者の高齢化に伴うサルコペニア・フレイルの増加、非運動性熱産生（NEAT）などが挙げられます。

糖尿病患者のうち血糖コントロール不良例ではサルコペニアやフレイルに陥りやすく、これらは生活の質（QOL）の低下や転倒、骨折リスクを高めることが知られています。また、死亡リスクを高めることも報告されています。糖尿病におけるサルコペニア・フレイル対策としては運動療法、食事療法が重要であり筋肉量の減少、身体機能の低下に対して理学療法士の活躍が期待されています。

NEATとはNon-Exercise Activity Thermogenesisの略称で日本語では非運動性熱産生と訳されます。従来の糖尿病患者に対する運動指導では10～30分程度の運動をウォーキングや体操などで行っていましたが、近年の研究で日常生活活動における身体活動（立位、歩行などの活動）を増やすことで糖尿病の予防・改善効果があるとされています。糖尿病に罹患していても「時間がない」などの理由で、運動が継続できない勤労世代の方たちへ介入する時には、NEATを意識した指導をすることで生活習慣の是正が得られる可能性があります。

また、日本糖尿病理学療法学会では糖尿病に関わる様々な分野の問題を解決するために全国規模での調査研究を行っております。下記URLより学会HPにてご確認ください。

調査報告（足病変、腎症、透析）

<http://jspt.japanpt.or.jp/jsptdm/research/index.html>

多施設共同研究

<http://jspt.japanpt.or.jp/jsptdm/research/multiple.html>

【今後充実を図りたいこと】

理学療法士が糖尿病患者に関わる場面は多様化してきています。教育入院や外来患者だけが対象でなく、患者会での活動や各地域における糖尿病対策推進事業および糖尿病重症化予防プログラムで活動する理学療法士も増えてきています。このように理学療法士の糖尿病患者の診かた、および関わる場面が広がりつつあり、研究の方法も進化させる必要があります。

日本糖尿病理学療法学会では、職能に資するエビデンス研究や大規模データベース構築の研究推進事業、地域における糖尿病対策推進事業等について、日本糖尿病学会との連携のもとに活動を展開しています。2019年の第6回日本糖尿病理学療法学会学術大会において、当学会は「沖縄表明 2019」と題して「糖尿病理学療法の定義」を発表しました。これを機に、糖尿病理学療法という言葉が理学療法士だけでなく他職種にも理解を得て浸透していくよう活動していきたいと考えます。

当学会は糖尿病に関する基礎研究・臨床研究、メタボリックシンドローム、肥満や糖尿病の予防、腎臓病や肝臓病を有する患者、足病変を有する患者、透析患者等、糖尿病患者に関する健康問題全般を広く扱っていきます。会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

（日本糖尿病理学療法学会ホームページ：代表運営幹事挨拶より抜粋）